



2021年3月 第19巻 第3号

### かく語りき—聖人の言葉

「私はおまえたちに本当のことを言っているのだよ。世間で暮らすことに、何ひとつ悪いことはない。  
しかし、心は神に向けておこななければいけない。そうでないと成功しないだろう。

片手で世間の務めをし、もう一方の手で神にしがみついでおいで」

…シュリー・ラーマクリシュナ

「あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。

むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。あなたの宝のある所には、心もあるからである」

…主イエス

### 今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・お知らせ
- ・2021年4月、5月の予定
- ・2021年3月逗子例会  
「感動的な逸話」  
スワミ・デヴィッド・ヤタナンダ
- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

### 今月の予定

～お知らせ～

●2021年3月より「ウィークリー・ウパニシャッド・クラス」は月3回、第1, 2, 3水曜日となりました。  
時間はこれまでどおり、朝8:30から45分間の予定です。

●ズームに関するお問い合わせ、お申込みは下記にメールをお送りください。  
zoom.nvk@gmail.com

### 2021年4月、5月の予定

- ・4月の生誕日  
スワミ・ヨーガナンダ  
4月1日(木)

・5月の生誕日

ヴィッシュダ・シッターンタ暦では、  
2021年5月に生誕日はありません。

・4月、5月の協会の行事

<4月のスケジュール>

4月29日（祝）5:00～20:00

アカンダ・ジャパム

詳細は☞[こちら](#)

連絡先：[vedanta.karmayoga@gmail.com](mailto:vedanta.karmayoga@gmail.com)

<5月のスケジュール>

5月01日（土）10:30～12:00

インド大使館バガヴァッド・ギーター  
聖典講義

テキスト「バガヴァッド・ギーター」

☞[こちら](#)

講話のまとめは ☞[こちら](#)

★後日映像をアップ

5月05日、12日、19日（水）8:30～9:15

ウィークリー・ウパニシャット・クラス

詳細は☞[こちら](#)

★Zoomのみ（後日映像をアップ）

5月09日（日）14:00～16:00

ラーマクリシュナの福音勉強会

テキスト「ラーマクリシュナの福音」

☞[こちら](#)

講話のまとめは ☞[こちら](#)

★Zoom、ライブストリーミング、メールによるQ&A有

5月16日（日）11:00～16:30

逗子例会

講話者：スーミー・メダサーナンダジ

★ライブストリーミング

5月30日（日）

スーミー・ウヴェーカナンダ公開祝賀会

於：南大塚ホール

<講話の際のQ&Aについて>

「ラーマクリシュナの福音勉強会」では皆様からの質問メールを受け付けております。

質問がある方は15:25位までに質問のメールを送ってください。

・送り先：[benkyo.nvk@gmail.com](mailto:benkyo.nvk@gmail.com)

・ご質問の内容は、日本語で、わかりやすい言葉で、短くシンプルにお願いします。

・プライバシーポリシーにより、お名前は公表いたしません。

<ホームレス・ナラ・ナーラーヤナへの奉仕活動>

日程：通常 毎月 第4金曜日

現地でのお食事配布など。

お問い合わせ：

佐藤 [urara5599@gmail.com](mailto:urara5599@gmail.com)

<ハタヨガ・クラス>

日程：通常 毎月 第1、第2、第4

土曜日

時間：10:30～12:00

レッスンは変更になる可能性もござい

ますので直接、担当講師にご連絡ください。

お問合せはヨーガ教室ホームページをご覧ください。

## 2021年3月返子例会

### 「感動的な逸話」

## スワミー・ディッヴィヤナターナンダ

スワミージー（スワミー・ヴィヴェーカーナンダ）は、スワミー・ブラフマーナンダに宛てた手紙にこう書きました。「盤石のごとき障害という壁を打ち砕くのは、お金でも、名声でも、学識でもなく、人格である。このことを心に留めておきたまえ」

スワミー・ヴィヴェーカーナンダのリーダーシップでボラノゴル僧院が設立されて以来、シュリー・ラーマクリシュナの教えである放棄という高潔な理想によって鼓舞された有望な若者たちが、僧侶としての人生を受け入れ、真我の悟りと人類への奉仕に自らを捧げました。その多くは手本となる人生を送り、他者が従うべき道を開きました。彼らは最良の人格と、先ほど申し上げたスワミー・ヴィヴェーカーナンダの言葉が事実であることを、身をもって示しました。これから、このような信念の固い僧侶たち数名の心を揺さぶる思い出について話します。



## スワミー・ヴィーレーシュワラナンダ

プラブ・マハーラージ（僧侶になる前の名前がプラブ）として知られるスワミー・ヴィーレーシュワラナンダは、ラーマクリシュナ僧団の第10代目の僧長でした。ヴィーレーシュワラナンダジーは、ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィーの弟子で、数名のシュリー・ラーマクリシュナの直弟子に会うという幸運に恵まれました。37歳でラーマクリシュナ僧院の副事務官（アシスタント・セクレタリー）となって以来ベルル・マトに滞在し、運営の仕事に専心しました。外見は厳格で寡黙に見えましたが、内には母のようなハートが息づいていました。ホーリー・マザーは言いました。「全世界を自分のものにすることを学びなさい。他人などいません。我が子よ、全世界があなた自身なのです」

ヴィーレーシュワラナンダジーの兄弟愛がわかる出来事をお話しします。ある午後、ナレンドラプールというコ

ルカタ郊外のベルル・マトの支部から新米の見習い僧侶が、プラブ・マハーラージに大事な手紙を届けるためにやってきました。夏の暑い日でしたので見習い僧は自然と汗をかいていました。マハーラージは見習い僧を椅子に座らせて、部屋の隅の戸棚から冷たい水を取り出し、夏によく飲むシャーベット水というジュースの用意を始めました。それからスタッフの少年にベルルの市場から少し氷を調達してくるように言いました。見習い僧は、マハーラージはご自分が後で飲むジュースを用意しておられるのだ、とっていました。少年が氷を持って帰ると、マハーラージは氷を水道水でゆすぎ、氷とジュースを混ぜて、見習い僧に飲むように手渡しました。見習い僧はとても驚きました。なぜなら自分は新米にすぎないし、プラブ・マハーラージは副事務官でたくさんの仕事を抱え、年齢も何歳か上だったからです。この出来事はもちろん見習い僧の期待以上のことでした。従者に頼むこともできたはずなのに、事務仕事を脇に置き、見習い僧に飲み物を準備して飲ませるなんて思いもよらないことでしたから。実際、この出来事は、暑い夏の日には長い道のりを歩いてきた兄弟僧に対するヴィーレーシュワラナンダジーの思いやりをあらわしています。ホーリー・マザーはしばしばこのように言いました、ラーマクリシュナ僧団のメンバーを結びつけるのは愛だけです。

マハーラージは非常に質素で厳格な生活を送り、ラーマクリシュナ僧院の上級職にあっても、他者よりも多くの特権を受けることをいやがりました。もう一つの出来事が、この性質を如実にあらわしています。ある日、ヴィーレーシュワラナンダジーは、市場に行って自分用の小さなカップを買ってくるように見習い僧に頼みました。プラブ・マハーラージは希望のカップの大きさを伝えていましたが、見習い僧はそのサイズのカップを探しても見つからなかったので、少し大きいカップを買って帰りました。市場ではちょうどいいサイズのカップがなかったので、マハーラージはしぶしぶそのカップを受け取りました。本当は、ヴィーレーシュワラナンダジーは副事務官でしたので、台所の世話係は当然のようにマハーラージのカップにミルクを満杯に注ぎます。ヴィーレーシュワラナンダジーは、自分が多くのミルクを受け取れば他の僧院のメンバーの分が減ると考え、小さなカップを欲したのです。鋭い観察力でマハーラージは、小さなことでさえ他者のために自分を犠牲にしました。この出来事を通して、ヴィーレーシュワラナンダジーの他者への思いやりと、またもうひとつは、控えめな態度が見て取れます。

ヴィーレーシュワラナンダジーの放棄の精神を物語るもう一つの話をした

します。ヴィーレーシュワラナンダジ  
ーはある日、ベルル・マトの近くにあ  
るサーラダーピト・センターから来た  
僧侶のそばにいて尋ねました。「君は  
16 ミリフィルムを投影機に映写したそ  
うだが、本当かね？」 僧侶がはい、  
と答えるとマハーラージは持参したフ  
ィルムを手渡して、そのフィルムを見  
せてくれるように頼みました。フィル  
ムを見たマハーラージは、特定の箇所  
をカットすることができるか尋ねまし  
た。実は、新しいサーラダー・マトが  
シャンカラナンダジーによって発足  
されたとき、多くの先輩僧侶がその祭  
典に出席し、プラブ・マハーラージも  
その一人でした。ヴィーレーシュワラ  
ナンダジーが持参し見せてくれるよう  
に頼んだのは、この祭典の 16 ミリフ  
ィルムでした。マハーラージはご自身  
が映っている箇所を消してほしかった  
のです。

このことから、ヴィーレーシュワラ  
ナンダジーは脚光を浴びることを望ま  
なかったことが分かります。マハーラ  
ージにとって大事なことはシュリー・  
ラーマクリシュナへの奉仕であり、沈  
黙の奉仕者であり続けることを好んだ  
のです。シュリー・ラーマクリシュナ  
は繰り返し言いました、この「未熟な  
私」を棄てた時、「成熟した私」があら  
われる、と。また、これらの行為を通  
して、「私ではない、あなたです」とい  
う精神が実践できます。

## スワミー・ブーテーシャーナンダ

ブーテーシャーナンダジーはラーマ  
クリシュナ僧団の第 12 代目の僧長でし  
た。皆さんがご存じのように、ブーテ  
ーシャーナンダジーは日本の信者から  
大変愛され、日本を 10 数回訪れました。  
ブーテーシャーナンダジーはその素朴  
さ、母のような愛、気取らない性格か  
ら、皆にたいそう愛されていました。  
ブーテーシャーナンダジーはベルル・  
マトに見習い僧として入り、そこで先  
輩僧の指導の下、僧侶のお世話の仕  
事を始めました。それとともにマハー  
ラージは非常に知識の豊富な僧侶たち  
から、とても深く聖典のことを学びま  
した。マハーラージはまじめに僧侶の  
お世話をし、一生懸命に勉強したので、  
先輩僧たちからたいへん愛されました。  
出家の誓いの後、マハーラージはひた  
すら瞑想をするために、ひとりになり  
たいと強烈に思うようになったので、  
スワミー・シヴァーナンダの許しと  
祝福を受けて、ヒマラヤのふもとのウ  
ッタラカシへ行きました。ウッタラカ  
シに滞在中、マハーラージは神以外の  
全ての考えを忘れ、ひたすら神だけ  
を考えて瞑想することに身を捧げよう  
としました。

神を悟りたい、という熱い願望が彼  
の内で激しくなりました。食料は、飢  
えを満たすために托鉢で調達したチャ  
パティ数枚にギー（精製バター）を塗

ったものでした。ある時、マハーラーヂをよく知る信者が、マハーラーヂがミルクを飲むようにお金を送りましたが、マハーラーヂはそのお金を送り返しました。後年、ご自身が語ったことがあります。ある日、私は心が「私」意識から離れたことに気づきました。それでも心は自由に、自発的に神のことを思っている、ということが分かりました。シュリー・ラーマクリシュナはかつてこうおっしゃいました。私たちの心は染屋の布のようなものだ。浸けた色に染まる。だから自分の心の絶え間ない瞑想で、心はすべて、神への思いに染まる。シュリー・ラーマクリシュナは信者にこうも言いました。いかなる世俗への思いも脇において、神に祈り、神を瞑想するためにしばらくの間、ひとりになりなさい。それからこの世界に留まるのだ。そうすれば、世界に執着することはないだろう。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダが二度目に西洋を訪問する前に、ベルル・マトで僧侶たちに演説しました。「君たちの人生において、大いなる理想主義と大いなる実用主義を合わせるよう努力せよ。この瞬間、深い瞑想に入り、次の瞬間には外に出て（僧団の牧草地を指して）この畑を耕そう、という心構えを持ちたまえ。この瞬間、難解な聖典を説き、次の瞬間には市場に出かけて収穫した野菜を売る、という心構えを持ちたまえ。ここベルル・

マトだけでなく、どんな場所でも、いかなる卑しい仕事もするという心構えが必要なのだ」

まさにスワミーが望んだように、ブーテャーナンダジーはその生涯において、修行・瞑想への熱意と、奉仕への大いなる専心・献身を合わせました。仕事に取り組み始めれば、ハートも魂も仕事の中に入ったことが見て取れました。ベルル・マト本部は、インド北東部に位置するチェラプンジにブーテャーナンダジーを派遣することにしました。チェラプンジは国内で最も降雨量が多く、一年の大半が非常に寒い場所です。兄弟僧たちは、待ち受ける困難を説明し、チェラプンジに行くことを思いとどまらせようとしました。ブーテャーナンダジーは当初葛藤があったものの、ついには挑戦だと受け止めてチェラプンジに行く決心をしました。チェラプンジはよく雨が降ったので、ほとんどずっと着物は湿ったままでした。天井の雨漏りがひどく、床は濡れ、寝るためにたびたびプラスチックのシートを体に巻き付けていたほどです。それほど大変な状況でした。ブーテャーナンダジーは一枚だけ乾いた着物をとっておき、講義とアーシュラムの資金集めのために信者のもとに行くときにそれを身につけました。

このことから、ブーテャーナン

ダジーの不屈の精神、忍耐、そして神への信頼が分かります。こうしてブーテシャーナンダジーは大変な状況の下で9年間チェラプンジにとどまり、アーシュラムの状態を改善しました。チェラプンジからベルル・マトに戻ると、ブーテシャーナンダジーはラージコートのアーシュラムを担当するように打診されました。ラージコートの状態もひどいものでした。アーシュラムには多額の借金があり、閉鎖の危機だったのです。それでもブーテシャーナンダジーはアーシュラムの活動を組織化し、地元の人々に好意的な受け入れられることで、徐々にラージコート・アーシュラムを築き上げました。マハーラージはアーシュラムの借金を少しずつではありますが、すべて返済しました。また、スワミーのコンプリート・ワークス（スワミーの講義、手紙などすべてを網羅した9巻からなる書物）をグジャラート語に翻訳する手はずを整えました。このことはブーテシャーナンダジーの驚くほどの先見性を物語っています。彼はより多くのグジャラート州の人々に、スワミー・ヴィヴェーカーナンダの教え、人生について知ってほしかったのです。ブーテシャーナンダジーはグジャラート語に堪能になったので、地域の信者や多くの人々と親しくなりました。このように彼はアーシュラムの評判を上げ、しっかりとした基礎を作りました。彼はアーシュラムの財政

状態を改善しただけでなく、霊的、知的側面も着実に進展させました。このことから、決意、先見性、ハードな仕事、そして何よりも神への信仰と信頼があれば、素晴らしい成果に結び付くことが分かります。

これまでお話したことから、ブーテシャーナンダジーは、喜びや痛みに影響されない安定した智慧の人「スティタ・プラグジャー」のレベルにご自身を引き上げ、いかなる状況下でも心が静かであったとすることができます。

もう一つの出来事は、ブーテシャーナンダジーがどれほどサンガ（僧侶らの共同体）を大事に思っていたかということをお話しています。スワミー・ヴィラジャーナンダがラマクリシュナ僧院長だったときのことです。シュリー・ラマクリシュナの生誕祭がベルル・マトで、恒例の式典、厳かな礼拝、信仰の音楽、講話などで祝われようとしていました。遠近の支部から僧侶たちと多数の信者も集まりました。それはまさに神聖な光景でした。しかし、年配の僧侶たちと仲の良いある信者が自宅にシュリー・ラマクリシュナを祀ることにし、この格別な日に特別なプージャを行うことにしました。その信者はヴィラジャーナンダジーに、そのプージャができる僧侶をベルル・マトから派遣してほしいと頼み

ました。ヴィラジャーナンダジーは困りました。そこでブーテーシャーナンダジーを呼んで悩みを打ち明けて言いました、僧侶にベルル・マトの生誕祭から離れて信者の家に行ってくださいと頼んでもいいものだろうか。するとブーテーシャーナンダジーは一瞬もためらわず、もしヴィラジャーナンダジーがお許しくださるなら私が行きます、と言いました。ヴィラジャーナンダジーはほっとして喜びました。ブーテーシャーナンダジーはベルル・マトでの喜びと至福をなげうって、信者の家に行ったのです。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダは何度も言いました。「非利己的(無私)になると、素晴らしいご利益がある。ただ、私達にはそれを実践する忍耐がないだけだ」 別の機会にはこうも言いました。「清らかさと非利己的であることは、宗教の本当のあらわれである」 そして、私たちはこれらの出来事を通して、ブーテーシャーナンダジーがその人生でどれほど非利己主義の実践者であったかが分かります。とりわけ皆がマハーラージを慕ったのは、母のような愛と子供のような無邪気さからでした。一般的に人々は、自分の仕事や学業の成果が認められると、結果としてうぬぼれが出るものですが、マハーラージはそれを超越しました。彼は、僧侶、見習い僧、信者、金持ち、貧乏人、あらゆる階級の人々、など万

人と容易に親しくなることができました。ブーテーシャーナンダジーが社会のすべての層の人々と近づけたのは、学術的知識、仕事の業績、または厳しい修行や瞑想的精神からというよりは、母のような愛と素朴なふるまいによるものでした。

## スワミー・ガンビラーナンダ

ガンビラーナンダジーもラーマクリシュナ僧院の非常に尊敬される僧侶です。副僧長になる前の数年間を書記長として奉仕し、ヴィーレーシュワラナンダジーが亡くなった後、僧団の第11代目の僧長になりました。バガヴァッド・ギーターとウパニシャドを英語に翻訳したことと、信ぴょう性と文学的評価の高いホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィーとスワミー・ヴィヴェーカーナンダの生涯をベンガル語で書いたことで特に有名です。彼がアドヴァイタ・アーシュラムで著書「Reminiscences of Swami Vivekananda (スワミー・ヴィヴェーカーナンダの回想録)」を編集していたところに、ひどい腹痛に苦しみましたが、その困難を気にも留めずに仕事を続けました。お腹に枕を押し付けて痛みを和らげようとはしました。見習い僧が休息をとってくださいと言うと、ガンビラーナンダジーは「休息を取ったからと言って痛みがなくなるとでも思うのかね?」と言いました。スワミー



一がなされた仕事に対する愛情の前では、自分自身の大変さなど些細なことだったのです。そしてガンビラーナンダジーは、スワーミージーの仕事をしているときに全ての苦しみを忘れる、と言いました。奉仕を礼拝のレベルまで上げることができたのです。そして、奉仕の機会を得ると、身体的苦痛さえ存在しなくなりました。

朝、散歩に行くのがガンビラーナンダジーの習慣でした。僧長だったある日、散歩の後、ベルル・マトでガンビラーナンダジーが寒さに震えているのを従者が見つけました。医者が呼ばれ、足に軽傷が見つかり、短期間の入院が必要となりました。ご自身がそのことについては何も語らなかつたので、何が起こったかを知る者は誰もいませんでした。ずいぶん後になって、ラクノウを訪問中にある先輩の僧侶に次のように漏らしました。日課の朝の散歩中に、目が悪い私は道がよく見え、誤ってガンジス川の方を向き、滑り落ちました。何とか宿舎に戻る道を見つけたものの、その出来事が人々を不安にさせ、年配の僧侶、特に重要職の日常業務が急遽見直されるかもしれないことを心配して、川に落ちたことは黙っていました。ガンビラーナンダジーはあらゆる混乱を避けようと、沈黙していたのです。一般的にインド人は、人生で困難に遭うと誰にでもそのことを話します。つまり注目の的になるわけ

です。しかし、ガンビラーナンダジーの場合は、それとは反対でした。

バガヴァッド・ギーター第12章15節  
ヤスマーン ノードヴィジャテー  
ローコー ローカーン ノードヴィッ  
ジャテー チャ ヤハ /  
ハルシャーマルシャ・バヨードヴェ  
ーガイル ムクトー ヤハ サ チ  
ャ メー プリヤハ //  
誰をも不安にさせず、また誰からも心の平安を乱されない人、  
喜怒哀楽の感情に捉われないひと、こ  
のような人たちを私は愛する。

僧院でガンビラーナンダジーは、時間をきっちり守ることで知られていました。彼は厳密に、粘り強く、何年も毎日毎日、日々の日課に従いました。副僧長になってからでさえ、ささいな日々の日課も欠かしませんでした。ある日、従者の一人が驚いてふと言いました。「それほどご高齢になられても、綿密に日課に従う必要があるのでしょうか？」 マハーラージはすぐさま、死んだって日課はやめない、と言いました。このことは私たちに、時間管理がどれほど大事なことを教えてくれます。彼は日課に従い時間を無駄にしなかつたので、管理業務で忙しくても非常に多くの神聖な書物を執筆することができました。それはまた、ガンビラーナンダジーがいかに聖典を愛していたかをも物語っています。

## スワミー・ランガナーターナンダ

ランガナーターナンダジは、スワミー・ブーテーシャーナンダの後を継いで、ラーマクリシュナ僧団の第13代目の僧長になった方です。説得力のある演説者であり、哲学、世界の聖典、多くの近年のものごとに精通していたことから、世界中でよく知られていました。ランガナーターナンダジはインドの宗教文化大使を政府から任命され、訪れた国々でヴェーダーンタの教えを広めました。

第二次世界大戦前、ビルマのラングーンにラーマクリシュナ僧院の支部がありました。戦争が起こった時、敬愛するランガナーターナンダジはラングーン・アーシュラムで奉仕をしていました。日本がビルマを攻撃すると、人びとは町から逃げ始め、アーシュラムは閉鎖を余儀なくされ、マハーラージもそこを去らなければなりません。彼は、船や飛行機で逃げるように言われましたが、徒歩でなんとか逃れようとしていたビルマの人々と行動を共にすることにしました。こうして無事にダッカまで行き、最終的にベルル・マトにたどり着いたとき、体重は35キログラムしかありませんでした。後にしばしば言った言葉があります。「あなたは霊性が成長していますか？ 他者を愛せますか？ 他者とひとつだと感じられますか？ 自分の内に平安

はありますか？ そしてその平安を周りに放射していますか？ 霊性の成長とは、自分の内側を瞑想で喚起させ、外側を奉仕の精神での仕事により喚起させることです」マハーラージはその生涯で、他者とひとつであるということを示しました。他者の苦しみはご自身の苦しみとなりました。だから自分の安全のために逃げ出したり他者を置き去りにすることなど不可能だったので。

敬愛するランガナーターナンダジは、生涯清貧の誓いを守りとおしました。彼はさまざまな国々を訪れたときも、ほとんどお金を持っていませんでした。予定された講義の時は、いつも誰かが空港に迎えに来ることになっていたからです。ある時、たまたま連絡が行き違い、担当の人が迎えに来ないことがありました。スワミーはシンプルに、見知らぬ人に電話をかけるための硬貨を乞いました。これが、彼が続けた精神です。

ランガナーターナンダジは、講話のために多くの場所を訪れましたが、中にはラーマクリシュナ僧院の支部がないところもありました。そんなときは、地元の要人のゲストとして滞在するように言われました。通常偉い人は、自分の偉さを常に認識しています。しかしランガナーターナンダジの場合、人々の輪に入るといつも仲良くなり、

その一員となりました。誰かの家に滞在するときにはいつも無条件にその家の子供も含め全員と、とても仲良くなりました。しかし、いざ演壇に立ち講義をしたり、周りの人々から宗教や霊性に関するまじめな質問を受けたときは、全くの別人になりました。彼の生涯は威厳と素朴さが合わさったものでした。ベルル・マトやハイデラバードやほかのアーシュラムに滞在しているとき、僧院の仲間とバレーボールをしている姿がよくみられました。

もう一つの出来事はランガナーターナンダジーの子供のような性質をあらわしています。数名の信者とボートでナルマダ川を渡っているときのことです、ある場所で船頭が、この川の深さは400フィートで最も深い場所です、と知らせました。ボートに乗っている人たちは深さを確かめようと川面をのぞき込みました。皆が顔を上げると、ランガナーターナンダジーがいなくなっていました。心配もつかの間、彼はボートの近くを泳いでいました。ケララ州の村育ちのマハーラージは、本当は水泳の名手でもあったのです。

ランガナーターナンダジーの簡潔さも観察する価値があります。彼は自分の性格は脇に置き、信者とひとつになる才能がありました。もうひとつの出来事は、彼の簡潔さをあらわしています。ある時、彼は自分の部屋から出て

講義をするホールへと向かっていました。同行者がランガナーターナンダジーのシャツのボタンがきちんと止まっていないことに気づいたのでそのことを告げました。すると、大丈夫です、皆、話を聞きに来ているのだから、私が何を着ていようと気にかけないでしょう、と言いました。

今日はラーマクリシュナ僧院の非常に尊敬されている先輩僧侶方のことを簡単にお話ししました。彼らは学識や名声だけではなく、その人格によって尊敬されています。その生涯は、私たちが熱心に見習うべき模範です。彼らは、多大なる無私、強さ、忍耐、神への信仰、また、それ以外の神聖なことから、実践や達成が可能であることを実証なさいました。彼らの生涯を振り返り、その特性を私たちの人生に浸透させましょう。



## 忘れられない物語

### 「牧師の猫」

ある教会の牧師が飼っている子猫が裏庭の木に登ったのはいいが、怖くて下りられなくなった。

牧師は暖かいミルクなどをやろうとしたが、子猫が下りてくることはなかった。その木は人が登るには細すぎたので、牧師は木と自動車をロープで結び、手が届くまで木をしならせて子猫を捕まえることにした。

牧師は木のしなり具合を確認しながら、自動車を進めた。あともうちょっと自動車を進めれば、子猫に手が届くまで木がしなる、と考えた牧師がほんの少し自動車を前に進めると、ロープがちぎれてしまった。木は大きく反り返り、子猫はたちまち宙に舞い、そして見えなくなった。

とんでもないことをしてしまったと思った牧師は、子猫を見ませんでしたか、と近所中を尋ねまわったが、誰も迷子の子猫を見たものはいなかった。そこで牧師は神に祈った。「主よ、どうか子猫を護ってくださいますように」そうして自分の仕事に戻った。

数日後、牧師は食料品店で教会員のひとりに会った。その女性の猫嫌いを知っていた牧師は、彼女のショッピングカートにキャットフードがあるのを見かけ、驚いて尋ねた。「あなたは犬の猫嫌いなのにどうしてキャットフードを買うのですか？」

「信じていただけないかもしれませんが」と前置きして彼女は語り始めた。

「若い娘はいつも猫を飼いたってねだるんですが、私はダメだって言っただんです。数日前のことですよ、娘がまた猫を飼いたいと言いだしたもんで『ああ、わかったよ。もし神様がおまえに猫をくださったら、飼ってもいいよ』と言ってやりました」

彼女は続けた。「私はね、娘が庭に出てひざまずき『神様、どうか猫をお与えください』とお願いするのを見てました。そうしたら、牧師さんは信じないかもしれませんがね、私はこの目で見たんですよ。子猫が足を広げながら大空からひょいと飛んできて、娘の真ん前に下りたんです」

インディアンソート・In より

## 今月の思想

必要なことから始めなさい。  
それからできることをするのです。  
そうすれば、あなたは一躍、不可能をなしています。

…アッシジの聖フランチェスコ

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: [info@vedanta.jp](mailto:info@vedanta.jp)